

## 令和4年 第2回奈井江町総合教育会議議事録

	<p><b>1. 開会</b> 9:55</p>
<p>松本事務局長</p>	<p>皆さんお集りですので、第2回奈井江町総合教育委員会議を開催してまいりたいと思います。 次第2番目、町長挨拶と以降の議事進行は町長にお願いをいたします。</p>
<p>三本町長</p>	<p><b>2. 町長挨拶</b></p> <p>12月入って2週間、本当にあっという間に大雪になり、除排雪に大変な思いをされていることと思います。今日、職務代理が体調不良で欠席であります。</p> <p>コロナの状況では、誰がなってもおかしくない状況で、町内で今クラスターが3件、施設で発生しております。それぞれ老人の施設関係であり、行政的にどういう形でシェアできるかが難しい状態で、それぞれの施設でなんとか対応しなければいけないという状況です。</p> <p>そのような中、何とか軽症ですんでいるということが、まずほっとしているところです。改めて皆さんの立場からも、それぞれ自分で行う予防につきまますので、皆さんの周りの人たちにもそんな思いで伝えていただければと思います。</p> <p>改めてご挨拶申し上げますが、12月7日から2期目の町政を担わせていただくことになりました。本当に1期4年間、私なりに、教育という部分については、前任の萬教育長はじめ相澤教育長と、それぞれの教育長の思いも教育委員の皆さんの思いと掛け合わせる形で、ひとつひとつ新しいことに挑戦をしていただいて、今があると思っています。このことを2期目にも引き続き繋げていながら、私にとって生涯活躍のまちということを、ずっと言わせていただいています。</p> <p>しかし、繋がる形での子育てというのは、間違いなく、これからの人口が減少していく中で、のまちづくりにおいて、一番大きな柱であるべきだと思っています。教育委員の皆さんの忌憚のない意見をぶつけ合って作り上げていくという機会を共有していただき、4年間お力を貸していただきたいと思っていますので、このことについて改めてお願いをしたいと思います。</p> <p>それでは、総合教育会議を進めて参ります。報告案件、全学力・学習状況調査の結果ということもありますが、次に出てくる意見交換の中でのコミュニティ・スクールが皆さんと協議の中での最大の課題だと思っていますので、忌憚のない意見を聞かせていただいて、私なりに共有させていただきたいと思っています。</p>
<p>三本町長</p>	<p>それでは、次第3番目、<b>報告第1号「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について」</b>事務局より説明をお願いします。</p>
<p>井上係長</p>	<p><b>3. 報告</b></p> <p>議案1ページをお開き願います。</p> <p>令和4年度全国学力・学習状況調査について</p> <p>この調査は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に実施されています。</p> <p>調査実施日：令和4年（2022年）4月19日（火）</p> <p>対象学年：奈井江小学校 第6学年 36人、奈井江中学校 第3学年 28人</p> <p>教科：小学生⇒国語・算数・理科、中学生⇒国語・数学・理科</p>

井上係長	<p>P1～小学校の教科ごとの数値比較、P2～中学校の教科ごとの数値比較、P3～北海道版調査結果報告として北海道が取りまとめ公表した資料になります。レーダーチャートにより見やすく表示されておりますので、P3により説明いたします。</p> <p>【教科全体の状況】ですが、教科の領域別に全国を100とした場合の、全道及び当町のレーダーチャートが示されています。</p> <p>小学校においては、国語において、「話すこと・聞くこと」、「言葉の特徴や使い方」の項目においては、全道平均レベルに近いのですが、それ以外は低い傾向にあります。特に「我が国の言語文化」においては、差が大きく開いています。他に正答率が低い設問の傾向から、相手の意図を理解し、自分の思いをまとめることが苦手な傾向が見られます。</p> <p>算数においては、「変化と関係」は全道より高く、「数と計算」、「図形」も全道に近い数値になっていますが、「データの活用」の差が大きくなっています。また、「割合」の設問は理解できていますが、表やグラフ、データから必要な情報を読み取らなければならない設問は苦手な傾向にあり、出題形式では、記述問題が得意な傾向が見られます。</p> <p>理科においては、「粒子」の項目では全道に近い傾向にありますが、それ以外は、全般的に低い傾向にあります。観察で得た結果から問題を分析することが苦手で、出題形式では、算数同様記述問題が得意な傾向が見られます。</p> <p>中学校においては、国語においては、「書くこと」、「情報の扱い方」は大きく、また「我が国の言語文化」も全道より上回っていますが、その他は低い状況で、特に「話すこと・聞くこと」は差が大きい傾向にあります。「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」、「漢字の行書への理科」は得意ですが、「自分の考え方が分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」、「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」、「論理の展開などに注意して聞く」などといった『話す・聞く』については苦手な傾向が見られます。</p> <p>数学においては、「データの活用」については全道レベルといえますが、「関数」、「数と式」は下回り、特に「図形」においては差が大きい傾向にあります。「簡単な二元一次方程式を解く」といった基本的な問題から、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する」「事象を数学的に解釈して、問題解決の方法を数学的に説明する」など、数学的な見方や考え方から答えを導き出して説明するなど、数学全般的に苦手傾向が見られます。</p> <p>理科においては、全体的に低く、特に「粒子」を柱とする領域は、差が大きい傾向にあります。「日常生活や生活の中での理科に関する知識及び技能を活用する」に苦手傾向が見られますが、一方で「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる」、「複数の脊椎動物の骨格についての共通点と相違点を分析して解析できる」は、得意な傾向にあります。</p> <p>【質問紙の状況】は、学校質問紙調査や児童生徒質問紙調査の結果から、「成果が表れているデータ」、「市町村独自の取組の特色が表れているデータ」が掲載されています。</p> <p>左側、小学校への質問として、算数において「48 算数の指導として、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫した」が100%と、全道・全国に比べ大きく上回っており、児童においても左下青色のグラフになりますが、「57 算数の授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考えた」について、全道・全国を上回っていますが、先ほど説明した【教科全体の状況】として、算数については、大きく下回っていることから、学</p>
------	--

井上係長	<p>校での指導と子ども達の学習の定着においては大きな乖離が見られます。今後の学習方法・取り組みへの課題が見られます。</p> <p>また「59 児童一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を授業で活用した」についても、学校の取組としてはほぼ毎日活用したことにより全道・全国を大きく上回る結果となり、児童においても黄色のグラフ「37 普段 1 日当たり 3 時間以上、ICT 機器を勉強のために使っている」の質問に対し、全道・全国を大きく上回っています。当町における GIGA スクール構想における一人一台端末の活用が進められている結果が出ています。</p> <p>また、ここには記載されてはいませんが、小中ともに、昨年同様「普段から 1 時間以上勉強する」の項目について、全道平均を大きく下回り、「1 日に 3 時間以上テレビゲームをして遊んでいる」については、大きく上回る結果となっております。</p> <p>続いて右側、中学校においては、「41 国語の指導として、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、根拠を工夫して書いたりする授業を行った」が 100%と、全道・全国に比べ大きく上回っており、生徒においても、青色のグラフ「51 国語の授業の内容がよく分かる」と回答した割合が全道・全国より大きく上回っており、【教科全体の状況】としても、国語の「書くこと」の結果が高い成果につながっていると思われれます。また、「48 数学の指導として、公式やきまりなどを指導するときに、生徒がその根拠を理解できるように工夫した」についても、全道・全国を上回っており、生徒も黄色のグラフ「55 数学の授業の内容はよく分かる」と回答してはいるのですが、こちらも小学校同様【教科全体の状況】として、大きく下回っていることから、学校での指導と子ども達の学習の定着においては大きな乖離が見られる、今後の学習方法・取り組みへの課題が見られます。</p> <p>これらを踏まえ、【奈井江町の学力向上策】としては、今後も引き続き◎小中学校で統一した学習規律の徹底をしながら、R3 年度より開設した◎公設塾との連携により、家庭学習習慣の確立及び自主学習サポートを行うとともに、学ぶことの楽しさを感じられる特別活動を実施すること。そして、引き続き◎タブレット端末を活用した授業改善、◎町図書館司書と学校図書担当教諭による児童生徒への読書活動の支援に力を入れていきたいと考えています。</p> <p>これらの結果等については、12 月広報の特集記事にて掲載をし、まず、生活・学習習慣については、何より「家庭」が第一であること、そして、それをサポートする役目として「行政」が現在行っている取組（ななかま、長期休業中「朝活」、長期休業前「親学セミナー」、AI 教材「Qubena」実証導入について）、そして、来年度からスタートするコミュニティ・スクールを通じて「地域とともにある学校づくり」、奈井江町らしい教育、奈井江だからできる学校づくりを、地域全体で考えましょう！ということと呼び掛けております。</p> <p>以上、令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果報告といたします。</p>
三本町長	<p>これについては、教育委員さんの中では意見交換されていることと思いますが、まず、それぞれの委員さんの思いをお聞かせ願いますか。矢萩委員から順番にお願いします。</p>
矢萩委員	<p>中学校で数学・理科で苦手、点数がとれないのは、小学校からの基礎ができていないからだと思っています。小学校でできないまま中学校にあがるので、できないという状況から、基礎学力を身に付けることが大切だと考えています。今、開設している「ななかま」の自主学習も、家庭学習の習慣がもう少しとつくとう良いかと思います。</p>

矢萩委員	特に「ななかま」は3年生からスタートするので、通い始める3年生の保護者さんは「行きなさい」とか、あと子どもも最初は面白くて行ったりしますが、学年が進んでいくと、それに慣れてしまっ、自分でも出来ることもあるのか、段々行かなくなっている状況もあるようです。本当は5～6年生の大事な時期に、基礎を身につける意味でも、しっかり通ってもらうことが必要ではないかと思います。これからの課題かなと思います。
三本町長	ありがとうございます。三原委員どうですか。
三原委員	そうですね、数学が生徒たちも「よくわかる」、先生も「学校の授業理解できるよう工夫した」とアンケートで答えているにも関わらず結果はかなり乖離があるということと、アンケートはあてにならないのだなと改めて思いました。
三本町長	林委員はどうですか。
林委員	自分もやっぱり矢萩委員さんの言っていたとおり、小学校からの基礎を理解してないというのがこの結果かなと思っています。本当に、家庭に帰って、自分のために勉強しているのもわかるのですが、学力の向上につながっていないと思います。
三本町長	副町長から何かありますか。
碓井副町長	1ページにあるように、多少微増している結果ではあるかなと思いますが、これは、毎年6年生と3年生を対象ということで、毎年学年によるデコボコがありますよね。これを検証しながら、前の学年の段階で対策することがあるのでしょうか。
三本町長	先日問題になっていましたが、まず石川県で事前学習的なものをしてると。当然当町ではそういうことは実施していないということですか。
井上係長	はい。
三本町長	1ページ、2ページともに、合計が理科を除くと記載されていますが、理科が除かれている理由があるのですか。
井上係長	理科の実施が3年に1度ということもあり、前回の調査では、理科の実施がなかったため、比較するために理科を覗いた合計と、理科を含めた合計を記載しています。
三本町長	わかりました。この結果をみると、小学校はまだなんとなく、全道全国平均の差は近い形ですが、中学校って極端にいびつになっていますが、このへんはどのよう解釈していますか。
相澤教育長	テストのやり方が、定点観測という表現がいいかわからないですが、1人の子どもを継続して見ているわけではありません。その年の6年生と中3を対象に実施していますので、学年による差が出ている状況があります。この結果はあくまでも学年毎の傾向であり、奈井江町全体の傾向として正確かというところと違うかなというところ。とりわけ、昨年、全国の学力状況調査から、算数・数学においては、文章問題が非常に増えました。私も実際に取り組みましたが、問題を読むのも大変、回答も文書で回答するような形で、国語力がないと算数も解けないような状況に変わってきています。数学的な勉強もそうなのですが、基礎である国語力をつけないと、算数もできないような傾向が見受けられます。点数は表にまとめましたが、3ページの奈井江町全体の傾向はどうかとしたときに、アンケートの中で、子どもたちの勉強や家に帰ってきたからどんな生活をしているのか、というところが、全然1時間も勉強してないとか、家で3時間もゲームをしていると、継続的にこの傾向が出ている。

相澤教育長	そこのところを、根治しないと奈井江町の学力が上がってこないのかなと考えています。
三本町長	以前の会議の時に、それぞれ皆さんに「教育上の求めるものは何ですか」という問いかけに対して、最終的には「学力の向上」が第一ということであったかと思いますが、今、奈井江町の場合、少人数であることも含め、学年による格差もその通りだと思います。でも、教育をする側としては、同じような形を求めて教育していると思います。その学年の学力という言い方がいいのかわからないですが、その子どもたちの個性によって、歪に反映されるとしたら、それをどうやって望む形に持っていくか、ということが教育なのかもしれない。また、もう1つ感じたままを申し上げますが、奈井江町の教育ビジョンのベースは「自ら考える時間を醸成することだ」ということで、この間もずっと議論してきたわけですが、そうすると、逆に求める形にこだわる方がいいのか、それぞれの個性をしっかり伸ばすとしたときに、この歪でもよいのではないかという捉え方をするのか。そこが教育委員会から求められることだと思っています。どちらがいいということではなくて、今、説明を聞きました。教育長が言ったとおり、中学生の部分で言えば、小学生の話すこと聞くこと、書くこと読むことが繋がっているのです。ただ、中学校は、読むことはまあまあですが、話すこと聞くことが非常に低く、まさに国語力がなければ応用問題が解けないのは当たり前の話です。その辺をどうしていこうとするのか。ここをきちんとすれば、自分で考える力もついてくると思いながら、今の説明を聞かせていただきました。繰り返しになりますが、奈井江町教育ビジョンにある「自ら考える力を醸成する」ような、その後で出てくるコミュニティ・スクールのあり方も含めて「奈井江町の子どもたちは、このようであって欲しい」という、やはりここの部分を共有していて欲しいと思いますので、引き続きの議論を期待したいと思います。私のコメントは以上ですが、特に何か皆さんから追加で発言があればお聞きしたいと思います。
林委員	今の子どもは、数式を理解できていない印象です。例えば以前、他の市町の子どもですが、例えばお米を10キロ3,500円で売りました。8キロだといくらという問題に答えられない。それが現状なのです。大人になったら普通にわかるだろうということかもしれませんが、子どもたちは理解できていないと思いました。
三本町長	その他何か皆さんからありますか。
三原委員	ここには出てきませんが、子どもたちのITの力はびっくりするぐらい力を持っています。私も、うちの子に聞くぐらいですから。本当に感心します。
三本町長	私も携帯を使いこなせませんが、結局「1+1」がどうして「2」になるのか、考えなくてもできてしまうのです。ブラックボックスの中身が理解できないと、次に進めない。でも、ブラックボックスの中身を理解するというのが、先ほどの「国語力」からきつと始まることだと思います。これから教育委員会の方でも、図書館司書を増員して、総合的なものが備わって、考える力を養っていくと思います。今はスタートしたばかりで、この結果ですが、逆に言うと、この数字に一喜一憂することなく、貫けるものは貫いていただいよいのではと思ひ、聞いていました。
相澤教育長	「ななかま」も開設してまだ2年目なので、結果を出すまでには、まだ時間が足りないということ。夏・冬休みについても、今までは3日ぐらい、子どもたちに楽しい行事的ものやっていたという内容から、自学自習を行いながら、時々イベントもして楽しみながら、自学自習の習慣をつけてもらうという取組をしておりますし、実験的に今年度「Qubena (キュビナ)」というAI教材を導入しており、

	出来なかったら、出来るところまで、学年が下がっても、レベルに合わせて学習できるというものになっています。少しずつ成果が出ると思える対策をとっています。そして、溝が埋まらない部分でもあるのですが、どうしても保護者の意識が上がらない。先ほども発言しましたが、家に帰ってから全く勉強しないとか、ずっとゲームをしているとか、保護者が一言声をかけたり、子どもに関りをもつことで、子どもたちの家での過ごし方も変わると考えています。それに関しては、今カンフル剤も特効薬もまだ見つけられない形でのいるのですが、そのことを今、何とかしたいと考えています。
三本町長	前から同じことを話していますが、まさに子どもたちよりも親なのです。親の意識をどう改善していくかということ。逆に言うと、親の意識を変えるツールとしては子どもが一番いいということもあります。地域でそれぞれ親が変わっていかないと子どもも変わらない、相互的な作用があって、なかなか難しい問題だと思います。子育てに関しては、チャレンジが続いていくと思います。それでは、この議題に関してはこれでよろしいですか。ありがとうございます。
三本町長	それでは、 <b>次第4番目「意見交換」、「奈井江町コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について」</b> 、事務局の説明をお願いします。
大久保係長	<p>奈井江町コミュニティ・スクールについて説明をさせていただきます。</p> <p>資料の4ページ目をお開き下さい。</p> <p>コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことをいいます。</p> <p>平成29年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により設置が努力義務となり、現状では多くの学校で導入が進められています。</p> <p>学校運営協議会の主な役割としては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること</li> <li>・学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること</li> <li>・教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができるとなっています。</li> </ul> <p>目標やビジョンを共有し熟議と言われる、問題の解決を目指す対話によって運営していくもので「地域とともにある学校」を実現するための制度でもあります。</p> <p>この制度の導入にあたり、検討委員会を設置し、町内各界、各層の委員30名、子ども会議委員15名により5月から検討を重ねてまいりました。</p> <p>「1. 検討委員会の開催状況について」ですが、5月から9月まで6回の委員会、1回の役員会、子ども会議委員による検討を小学校・中学校・高校でそれぞれ1回、開催しました。</p> <p>「2. 学校公開参加状況」ですが 検討委員会の開催と並行して、学校公開で子ども達の学校での活動の様子を実際に見ていただくことや、講演会に参加することなど、取組んでまいりました。</p> <p>5ページ目となります。</p> <p>「3. 広報の状況について」ですが学校公開の実施スケジュールと合わせ、コミュニティ・スクールについての班回覧を1回実施しています。</p> <p>検討委員会の結果としては、「奈井江町の今ある資源を生かした、学校や地域との関わりから得られる知識や体験は子ども達の成長にとって大切なものであり、そこに保護者や地域が関わることによって、大人も子どもも互いに学び合えること、協働して活動できる環境が創られることが期待できます。</p> <p>コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進は、この課題を解消する手段として有効であると考え。」として、コミュニティ・スクールの数や幼小中高の</p>

連携の関係、委員の人数、コーディネーターの重要性、既存の組織との関係について、10月に検討委員会の委員長、副委員長から教育委員会へと報告されたところでは、

「4. 教育委員会関係」、「5. 協議内容」ですが、検討委員会からの報告を受け、教育委員会で協議を行って参りました。協議内容は、委員の構成・人数・任期・報酬、既存の会議との調整、コーディネーターについて、発足時期についてです。

「6. 各種委員会等開催状況」ですが、検討委員会の内容や教育委員会で協議した内容について、校長・教頭会議、社会教育委員会にて報告したところでは、

6ページになります。

検討・協議を重ねた内容を、組織図イメージとしたものとなります。

左側に小学校・中学校と縦書きとなっているところですが、「コミュニティ・スクールは小学校・中学校で一つとする。」「高校・こども園との、幼小中高の連携は必要である。」とされました。

右側の「奈井江町コミュニティ・スクール」として、四角で囲っている部分ですが、承認・意見・熟議・評価となっているのは、CSの役割となります。学校運営方針を承認すること、意見を述べること、学校評価を行うこと、熟議をとおして、互いを理解しよりよい状況へ発展することが役割とされています。

その委員として各界、各層から15名の委員を定数としています。委員の構成としては、小学校・中学校それぞれの教頭先生2名。校長について、委員ではなくても会議への参加は可能であることから人数には入っていません。PTAについてはより多くの保護者に関わってもらいたいということから、小学校・中学校から各2名となっています。こども園所長、高校校長は幼小中高の連携として委員としました。農業関連団体・商工会・福祉関連団体・町内企業から各1名、これは、現在学校での活動に関わっている団体となっています。連合区長については、学校のある校区から1名と考えています。民生（児童）委員から1名、コーディネーター1名。15名の委員を教育委員会が委嘱する形となります。

委員の中に出てきた、コーディネーターですが、社会教育法の中で地域と学校をつなぐ役割を担っていて、矢印の部分、オレンジ色の囲みになりますが、「学校・地域住民・企業・団体等との連絡・調整」、「地域学校協働活動の企画・調整・運営」、「地域住民への情報提供・活動促進」といった役割があります。

検討委員会の報告でも、「子どもたちと地域が、協働して活動できる環境が創られることで、大人も子どもも互いに学び合えること、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進は、課題を解消する手段として有効である。」として、地域と学校をつなぐコーディネーターの配置と役割は重要であるとの意見をいただいているところであり、教育委員会の協議においても、重要な位置づけであることが確認されています。

中央から下の部分「〇〇部会」となっている部分ですが、これは例えば小学校での田植えなどの活動にあたり関係機関が協議する場として、必要に応じ開催するイメージをもっています。

その下、地域学校協働活動となっている部分は、家庭や団体、地域住民が学校と関わる活動全般のことを指しますが、稲作体験や全町クリーン作戦などもこの活動にふくまれるものとされています。

一番下になります。既存の会議の統合等についてですが、「主旨や目的を同じくするものは整理する」との意見から教育委員会が所管する「学校関係者評価委員会」については、コミュニティ・スクールの役割として学校評価を行うことが

大久保係長	<p>含まれるため、コミュニティ・スクールへ統合。「幼小中高教育の連携に関する連絡協議会」は、コミュニティ・スクールの部会でおこなうこととして整理、「教育推進協議会」については町長を会長とする協議会であり、教育委員会の所管ではないことから、今回ご協議いただきたいと考えています。</p> <p>各協議会等の目的や構成については、次の7ページに記載していますので、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>8ページ目をお開き下さい。</p> <p>小学校と中学校で行われている地域と連携した活動を一覧にしたものです。</p> <p>9年間を通して様々な活動がされており、目標を持ちながらの活動としていくために年齢ごとに目標となるものですが、小学校1・2年生では「奈井江を識る」、3・4年生では「奈井江を観る」、5・6年生では「奈井江を探検し発信する」、中学校1・2年生では「世界を識る」、3年生では「まちづくりに参加する」としていきたいと考えています。来年4月の発足にむけて、意見交換をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
三本町長	<p>これについても委員会の中で委員さんたちとは共有されているとうことですが、整理したものを教えて欲しいのです。</p>
大久保係長	<p>委員会の中で整理されたものは、コミュニティ・スクールの組織について検討しております。6ページの図が組織として検討した結果、8ページが現在実施している地域協働活動をまとめ協議した内容になります。</p>
三本町長	<p>そうすると、あとこの場で協議するということになる、さっき説明にあった「教育推進協議会」をどうするか、ということについての議論をするということですね。</p>
大久保係長	<p>そうです。</p>
三本町長	<p>皆さん、委員会としての案みたいなのはありますか。例えば、「関係者評価委員会」と「幼小中高連絡協議会」は、コミュニティ・スクールの中にある程度包括できるというまとめですね。それと「教育推進協議会」もまとめることができるのではないかとということだと思のですが、構成の中に「町長」が入っていたり、「議会」が入っていることに対する整理だとか、ここは何か考えはあるのですか。</p>
大久保係長	<p>「教育推進協議会」については、「教育部局」と「町長部局」の連携を大切にすることで設置されている協議会ということもあり、これからコミュニティ・スクールが設置されることにより、学校にかかわる団体が、今までよりも深く議論できる場ができるということで、そこから、教育委員会へ意見も上がってきますので、その意見等については、この「総合教育会議」の場で共有及び協議ができると考えております。</p>
三本町長	<p>「総合教育会議」はそれでいいけれども「教育推進協議会」は議会も入っているので、その辺は、どのように整理しますか。コミュニティ・スクールの中には、教育委さんも入っていないのですよね。</p>
大久保係長	<p>入っていないです。</p>
三本町長	<p>コミュニティ・スクールの委員さんが、学校関係者評価委員さんと重なる部分が多くて包括した議論ができ、そこで議論されたものが教育委員会に提起してもらい、この場で協議したり共有したりということはできると思うのですが、そうだとした時に、「教育推進協議会」は、議会の議長さんや常任委員会の委員長さんも含まれていますので、今後、コミュニティ・スクールになっていた場合に、この方たちは入っていないわけで、理屈として、包括することが可能なのか。その整理が必要だと思います。</p>



松本事務局長	教育推進協議会の在り方としては、子どもたちの育成に関する学校運営に関することですか、教育方針などを共有してきました。それにつきまして、今後はコミュニティ・スクールの中で、町民とも議論されるようになることから、教育推進協議会については、同じメンバーも含まれているおり、発展的に解消していきたいと考えております。なお、町長との情報共有については、こういった総合教育会議の場を通じながら行ってまいりたいと考えております。
三本町長	コミュニティ・スクールのメンバーには、教育委員さんや議会以外は含まれていない。総合教育会議の中で、ただ報告として聞くのであれば、それでもいいのでしょうか、「そうじゃなくて」と議論しようとした時に、議論する場にはならないかと思うので、議会の意見をどのように反映するのか、その辺の整理はどうするのかということなのですかね。
松本事務局長	議会への説明ということで行くと、そこまでの整理ができていませんでした。
三本町長	それでは、「教育推進協議会」という会議は、法律に定められていましたか。
松本事務局長	定められておりません。
三本町長	それであれば、奈井江町の教育推進会議の中で、議会議長とか、町長とかが入っていることの意味は何なのかというところを押さえること。議員さんに対しては、教育行政の執行権を教育長に委ねているので、一定の整理がついた段階で、報告することで済むのであれば、これはなくしてもいいわけです。しかし、議員さんの意見が反映されなければいけないということであれば、どこかで議員さんが入る仕組みを作らなければならない。その整理が聞いていてよくわからない。あとは皆さんが、何回も同じ人が出てきて、同じ話を聞いて承認するだけの組織なら必要ないと思いますので、その辺を事務局で整理して教えてください。そして、教育委員さんには申し訳ありませんが、私の方で整理させてもらってもいいでしょうか。
教育委員	いいです。
三本町長	何度も形式的に集まるだけの組織は意味がないと思いますし、集まる時は、しっかりと議論をする必要があるということです。皆さんも、教育委員さんとして議会から承認されている委員さんですから、責任もあり、しっかりとダメなものはダメというような姿勢で臨んでいただき、ここで共有や議論をして、正確にきちんと積み上げて確認し、執行していくことになると思います。そのようなイメージを持っていますが、何か違うのでは、というようなことがあれば教えてください。
教育委員	はい。
三本町長	その整理をお願いいたします。そして、6ページの組織図のイメージと8ページの連携事業のことについても説明がありましたけど、この説明を聞くのも初めてなのは私と副町長2人だけですが、副町長何かありますか。
碓井副町長	少しずれてしまうかもしれないが、地学協働の中で、特に農業が入ったり、企業の部分もあると思うのですが、子どもたちの地元意識であったりとか、地域を知ってもらって、将来大学行っても、町に戻って働いてくれるというような何かそんなところがあったらいいのかなと感じました。
三本町長	そうですね。本当にまさにコミュニティ・スクールで前にも同じこと話しましたが、関わっている当事者たちにとっては、間違いなく同じ関心を持っている方は多いけれども、今関わっていない人たちに関心を持ってもらう仕組みでもあり、今言ったように、「ひょっとしたら自分たちが係わることによって、いずれ従業員

	<p>が確保できるかな」という考えになってくれば、ますます広がる話です。そこをどのように、この組織図の中で実践できるのかということです。おかげさまで、今いろんな人たちが応援しようという姿勢がいっぱいあると思うのですが、コーディネーターがどうやって繋げていくのが、一番きつと意味があることだと思います。いっぱい手を広げて、実のないものにしても意味がないので、1つのものに特化して広がりを持たせるみたいな。この間の映画じゃないけれども、何かそういう形で、その手法はいろいろあるのでしょうか。</p>
相澤教育長	<p>8ページに記載されているものは、今現在、全部実施しているもので、小学校は小学校、中学校は中学校で動いていますので、それを「9年間の学び」という視点で考えてもらいたく、教育委員さんと議論して、コミュニティ・スクールについては小中1つにしました。それでまず来年4月に発足をしたら、最初は委員さんも初めてでよくわからないので、勉強会をしていこうと思っています。そして、まず委員さんたちをお願いしたいのは、この8ページに出ているものを、順番に学年ごとに書いていますが、9年間を俯瞰したときに、どうやって活動していくことが、子どもたちにとって効果的なのかということ、場合によっては学年の組替えや、あるいは「こんなことも関連してできたらいいよね」というようなことの掘り起こしをしてもらいたいと思っています。初年度はそのような議論や作業になるかと考えています。委員さんもPTAとか充職にしつつも、任期を2年間とし、PTAから外れても2年間はしっかり委員として担っていただいて、議論を継続するようにしていきたいと考えています。次年度以降、委員構成を減らしたりするという意見を議論したいと思っています。</p>
三本町長	<p>十分議論していただければと思います。それぞれの学年に応じた活動が、バラバラではなく途切れず関連ある活動であって欲しいと思います。次年度の活動で、メロンの選果場に見に行った経験が、学年が上がって、メロンがどうなっているのかという関心につながるようなことになってくれたらいいと思います。5年生の田植え体験もそうですね。6年生になった時に、今時期、稲はこうだったよね、こうなるよね。ということも6年生が思ってくれないと意味がないと思います。そういう視点で、ここに書いてあることを続けていってもらえるような組織になればと思います。みなさんから何かありますか。林委員さんどうですか。</p>
林委員	<p>これは自分の感想ですが、自分の職業柄、今の小・中学生にメロンやお米に携わるということは非常に良い経験になる活動だなと、毎年見ております。</p>
三本町長	<p>お米に関しては、以前「町長と語る会」でも、必ず子どもたちは奈井江町を「ゆめぴりかの里」、「ゆめぴりかを使ってどのような町おこしができるか」ということがテーマとして挙がってきて「ゆめぴりか」という製品の認知は進んでいますが、どうやってできるのか、どうやって生まれるのか、そもそも「稲作」とは何なのか、ということは出てきていません。そういうことまでは、「町長と語る会」で求めてはいないので「語る会」としてはそれでいいのですが、そこがあって初めて「農業って面白いな」とか、さっきの副町長じゃないですが、町の事業者への理解であったり、繋がっていったらいいと思います。今のところは、まだそこまではいっていない。もっと事業者さんに関わってもらわないといけないと思います。三原委員はどうですか。</p>
三原委員	<p>この辺を歩いていて、地域の大人が子どもたちに気軽に声を掛けられる。そして、その子どもがやる気になる。そういうことだと思います。コミュニティ・スクールの活動は、イベント的なことが多くはなると思うのですが、その中で、繋がっていくことが本当の目的だと思っているので、常に、そのことを頭に入れておきたいと思っています。</p>

三本町長	まさにそういうことだと思います。矢萩委員はどうですか。
矢萩委員	三原委員の発言のように、縦の繋がり、横の繋がり、斜めの繋がり、町民たちの繋がりが、コミュニティ・スクールの機能として出来ていけばいいと思います。そして、小学生から中学生まで、町の人たち皆が係われる何かが、このコミュニティ・スクールの中にゆくゆく入ってきたら理想かなと思います。私の個人的な意見として、このコミュニティ・スクールに発案する機会があまりないので、コミュニティ・スクールの委員さんたちに任せるしかなくなってしまうのですが、本当に自分の町が、お花で綺麗にするという思いがずっとありまして、小学校とか中学校に毎年寄贈したりしているのですが、今年は奈井江商業高校の町長と語る会の提案に「花壇づくり」ということもあったので、来年は奈井江商業高校にも寄贈して、校門前にいっしょに花を植えようという提案をさせていただきました。そのように小さい頃から大きくなるまで、奈井江町を綺麗に美しくすることで、他の町からも見に来てくれたり、庭山にもっと植樹をしたりとか、道の駅を綺麗にしたりとか、道路を綺麗にしたりとか、そういうことに子どもたちも関われるようなことが何かできたらいいと思っています。小さいころから世代を超えた繋がりとして、町民みんなで取り組むというか。他の町の人たちに自慢できることに関わられたっていうことで、子どもたちが町づくりに貢献できるという喜びを感じれる、こうしたことがいいと思っています。
三本町長	そして付け加えると、そここのところで矢萩さんがいつもやってくれていることでまた繋がりが出てくると思います。その時に矢萩さんと一緒に作業をした子どもたちは挨拶しますよね。それこそが人づくりだと思います。きれいなフラワーロードができることが目的ではなくて、本当に目指すべきものは繋がりだと思います。あと何かありませんか。
碓井副町長	全然、別の話になりますが、今歩み始めようとしている「おしごとコンビニ」という取組も、今これからの新しいコミュニティを創ろうろうと一步一步歩いていくのですが、例えば、教育委員会における活用事例や何か関わりがありそうなことなどはありますか。例えば、ここの地学協働の資料にあるスキー授業のボランティアとかね、いつまでもボランティアとしてもなかなか人がいないとか、「多少安いコストでも町民の皆さんに参加してください」みたいなものがあれば、こちらの繋がりもでてくるかなと。
三本町長	そうですね。そのようなこともあるといいですね。みなさんから何かございますか。
教育委員	ありません。
三本町長	それでは、コミュニティ・スクールについては、ここで一度協議は終わりたいと思います。次に、「令和5年度教育行政(案)について」をお願いします。
松本事務局長	資料10ページをお開き願います。まちづくり計画後期実施計画で進める5か年の教育政策の内容とその施策について体系ごとに、「学校教育」、「社会教育」に分けて表記しております。その内容についてですが、次年度の主な教育執行方針としては、11ページをご覧くださいと思いますが、15ページまでにわたり、町づくり計画で掲げた事業を掲載しております。令和5年度における教育行政の主要事業方針を掲げる事業について説明を行い、意見を踏まえて策定していきたいと考えているところであります。 主要政策の説明になりますが、「(1) 未来を担う子どもの育成」におきましては、「1. 学校教育を充実します」では、②町独自の期限付き教諭採用が35人学級で進めておりまして、現在6年生で実施をしておりますが、新年度におきまして

は、対象学年がないということで、採用予定がなく空欄としているところがございます。

③英語指導助手2名による英語力、国際文化の関心を高める活動、④特別支援員の配置による特別支援学級に在籍する児童生徒保護者に安心して学校生活となる環境整備については継続を予定しているところでもあります。

⑥コミュニティ・スクールにつきましては令和5年度に設置を行い、開かれた学校づくり、学校運営の充実に向け取り組んでいきたいと考えているところでもあります。

⑧子どもの学習意欲を高め、自主的な学習活動等の基礎基本の定着に向けていくため、引き続き公設塾にも取り組んでいくとともに、⑨GIGAスクールの推進につきましては、タブレットの効果的な活用とともに、一人一人の個別最適な学びの推進に図っていきたいと考えているところでもあります。

12ページをご覧ください。「2.豊かな心、健やかな体の育成を推進」につきましては、②食と農の大切さ、基幹産業の体質、農業を学ぶため体験農園事業の実施、⑥⑦において、児童生徒のいじめや悩みへの早期発見、早期対応に向けて教育相談を実施、スクールカウンセラーの配置を行うこととしております。

その下の「3.快適な学習環境の整備」につきましては、①学校施設や設備の更新などにより、適切な学習環境を整備する他、②において部活動の地域移行など、これから進められていくということから検討を進めていきたいと考えているところでもあります。

13ページになります。「4.多様な教育機会の支援を推進します」では、①幼小中高の連携した相互理解や支援を行う保育や事業などの支援、②においてこども園において、幼児期からの英語に慣れ親しみ、興味や関心を高めていく英語活動の取組みとともに、⑦奈井江商業高校の魅力ある学校づくり、地域探究活動など、生徒1人1人の成長を支え、地域社会で活躍していく教育活動を支援する形を考えてございます。来年度におきましては、地域探求におきまして、高校の方では修学旅行で岡山県高梁市の城南高校と交流する予定としているほか、地域関係で学んだことが3年生では「マイプロジェクトアワード」という大会に参加しながら、地域探求の活動を進めていくという流れで支援をしていきたいと考えております。

「5.子供の健全な育成を推進します」では、①から③の子どもの権利に関する条例の推進に向け、権利の理解と普及、そして広報活動やまちづくり、社会参加などそれぞれの活動を通じ、町全体で子どもの健全育成を推進していきたいと考えております。

14ページになります。「(2)生涯にわたる学びの推進」で「1.生涯学習活動を推進します」では、④公民館講座、生涯学習の関係になりますけれども、幅広い年代の町民が趣味生きがいを見だし、文化的生活の向上を図るため、内容につきましても、親子で参加する講座など工夫を凝らしながら公民館講座の開催をしていきたいと考えております。

⑥⑦につきましては、乳児期から幼児期にかけて、本を親子の触れ合うきっかけづくりとして、本の読み聞かせとプレゼントを行うブックスタート、そのフォローアップとしての3歳児にブックセカンド、小学校の入学前に、絵本から活字という形での本の内容を変えながらブックサードという読書活動をおこないながら、町民全体での読書推進をこれから考えていくため、計画的に取り組んでいきたいと考えています。

松本事務局長	<p>⑨地域や団体と連携し、コミュニティスクールを通じ、子供たちの成長を支えていく地域学校活動を推進していきたいと考えております。</p> <p>15 ページ上段「2. 楽しく参加できる生涯スポーツを推進します」では、④町民の健康づくりのため、体育施設を運営する指定管理者との連携、子どもから大人まで運動を通じた健康づくりの意欲を高めていく活動を進めていきたいと考えております。「3. 個性豊かな芸術文化を推進します」では、②⑧になりますが、令和5年度文化ホールが30周年となります。周年事業としましても、春から町民に質の高い芸術文化を提供し、心豊かな学びとなるよう、それぞれ自主事業を開催していきたいと考えています。また令和5年度につきましては、ホールのエアコン、施設のボイラー改修など空調設備に関わる改修を進めていきたいと考えております。執行方針では、今説明した主要事業を掲げて考えているところであります。</p> <p>以上、説明とさせていただきます。</p>
三本町長	<p>ありがとうございます。これについても事前に説明は終わっていますか。</p>
松本事務局長	<p>これについては、してはいないです。</p>
三本町長	<p>わかりました。では逆に委員さんから、こんなことを執行方針で言うつもりなのではないかと、ご意見あれば聞かせてください。こんな形で、どれも大切なことなので、令和5年度執行方針に重点として、宣言であり、柱になりますので、これだけ見ても抽象的でよくわからない表現にはなるのですが、先ほど副町長からも出ましたが、「生涯活躍の町」という事業で、すでに教育委員のみなさんも、そのチームの中で一緒にやってもらっていますけれども、まさにあの健康づくりの部分では、体育館だとか、もう少し経ったら、新しい庁舎の中でも健康教育を推進しようというのがあります。町中音楽のことも含めて、いろんな形で、教育委員会だけじゃなく、全部一緒になっての話になってくると思うので、そこに一緒に進めて行って欲しいと思っています。それと、「快適な学習環境」のところでもあったのですが、①学校施設や設備修繕・更新など、まさに老朽化してきている校舎を考えたときに、今第6期まちづくり計画が終わろうとしていて、あと2年、令和6年度で終わりですので、5年度である程度の構想を整理して6年度に確定させてスタートさせるのですが、その中では教育施設の修繕も含めた、極論、校舎の立替なども盛り込むとか、良いか悪いかは別として、例えば義務教育学校ということも視野に入れた検討もしていかなければならない。みなさん既に意識はしていただいているとは思いますが、そういうことも、後年度の中でしっかりと、委員さんの中で研究をして欲しいと思います。商業高校の存続についても、非常に厳しい状況です。</p> <p>今年は、校長先生はじめ子どもたちが一生懸命頑張ってくれているのがよく伝わっているので、とても期待できるのですが、それが町外の人たちに伝わり、成果を生むには何年もかかることで、ひょっとしたら、結果として実を結ばないまま終わってしまうかもしれないことが正直な気持ちです。これは隠しても仕方ないので。</p>
三本町長	<p>今年は令和4年度に、校長先生はじめ子どもたちが一生懸命頑張ってくれているのがよく伝わっているので、そういう意味で、とても期待できるのですが、それが町外の人たちに伝わり、成果を生むには何年もかかることで、ひょっとしたら、結果として実を結ばないまま終わってしまうかもしれないことが正直な気持ちです。これは隠しても仕方ないので。昨日、北海道教育委員会教育長と話をして、なかなか難しいという話をしてきましたが、でも頑張るだけしっかりと、</p>

	<p>奈井江町として奈井江町教育委員会として一緒に進めたいなという思いだけではありませんので、そんなことも視野に入れてご提言をいただきたいなと思います。</p> <p>教育振興方針に介入するつもりはないのですが。期待するところとか、思いだけは伝えておきたいなと思いますので、ぜひそんなことを皆さんの中で考えていただければと思います。せっかくだからこんなことを入れてということがあればどうですか。</p>
三原委員	<p>校舎の建築については、いわゆる期限とか、いつ頃までにはということを考える必要があると思います。修繕すら我慢してもらっているのが何年も続いている状態なので。東町体育館などは新しく綺麗に直して、中学校は後回しといふふうに見えないように、ある程度目途は必要かなと思います。</p>
三本町長	<p>ここで弁解するわけではないのですが、一番、最初に耐震化ということに関しては、学校が一番、最初に取り掛かり、体育館などは後回しにしてきたのですが、建築年度によって耐震化が必要であり、点検しながら進めてきたところです。</p> <p>老朽化も進んでいるので、課題として認識しています。義務教育学校についても、私もよく分からないので、義務教育学校がよいのではないかと思いましたが、それなりの弊害もあるだろうし、逆に、小学校で特別授業をいただいた木村学先生のお父さんが高島小学校で教鞭をとられていた際に「小さいながら複式学級こそがよいものだ」と言っていました。まさに、たった30人しかいなかった子どもたちを、どういう形の教育が一番いいのか。今が過渡期なのかと思いますので、ぜひ考え始めていただきたいなと思います。</p> <p>それでは、本日の議題としては以上になりますが、皆さんの方から何かございますか。これに拘らなくてもいいです。矢萩委員どうですか。</p>
矢萩委員	<p>先ほど三原委員が言っていた小中一貫については、本当にもうそろそろ考えていかなければと思います。考えだしてから何年間もかかることですので、色々なところを視察に行くとか、実際に聞いたりしたことを検討するにも時間がかかるので、早めに取り掛かる必要があると思います。本気で考えましょう。</p>
林委員	<p>自分も中学校は、ある程度目途とか、方向性を知らせる必要があると思います。</p>
三原委員	<p>関係ない話なのですが、みなクルの協力隊、大したものだなと思い、関心しています。次から次へと企画して、オタマトーンも買いました。活動応援していますし、楽しみにしています。</p>
三本町長	<p>そうですね。副町長はどうですか。</p>
碓井副町長	<p>少しずつ来年度から「生涯活躍の町」ということで、文化ホール1つにしても、担当だけではなくて、町の町民の財産として、みんなで何ができるかということの視点をもって動き出そうということなので、ちょっと変革期になると思うので、いろいろまた皆さんと色々な活動ができればいいなと考えています。</p>
三本町長	<p>それでは最後に一言。今、三原委員さんからも、協力隊の頑張りを応援してくれるという話もありましたし、副町長からも変革期という話がありました。新しい教育ビジョンもそうだし、生涯活躍の町もそうですが、本当にいろんなことに子どもたちにも、挑戦していいのだということを意識してもらいたい。そして大人も当然そのことを考えて、行って欲しいという思いで2期目に臨んでいます。ただ、挑戦するというのが、いろいろなことをやってもいいのだということではありますが、どうしても財政的な制約があります。大風呂敷を広げて頓挫してしまったら何もならないので、将来に向かって持続するものであります。そして、目指して挑戦するという時に、例えば私なんか、副町長と教育長が、「そんなに風</p>

	<p>呂敷広げていいのですか」的な意見を言ってくれます。皆さんも同じように、言葉は適切じゃないかもしれませんが、みなさんが暴走するくらいのことを提言していただいて「そこまでできませんよ」っていうことであったり、逆に教育長が言ったときに「いやそれ大丈夫なの」っていうことを言えるくらいの形でないと、しっかりとした町づくりはできないと思っています。時間はかかるかもしれませんが、忌憚のない意見交換をして、育むための時間も必要だと思います。皆さんの任期は3年ごとで短いかもしれないけれども、常にやっぱり先を展望したまちづくり、教育行政を考えていただいて、ご助言をいただくとともに、実践する当事者であったり、実践する人を応援する人たちであっていただければいいなと思っていますので、でよろしく願いいたします。</p>
三本町長	<p>それでは、<b>次第5番目「その他」</b>、事務局から何かありますか。</p>
松本局長	<p>ありません。</p>
三本町長	<p>それでは、第2回奈井江町総合教育会議を終了いたします。 本日はお疲れ様でした。</p>
	<p><b>6. 閉会</b>      11:20</p>